

ボディケア・リフレクソロジー市場に関する調査結果 2015

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて国内ボディケア、リフレクソロジー市場の調査を実施した。

1. 調査期間:2015年4月～6月
2. 調査対象:ボディケア、リフレクソロジーを提供している企業、及び関連団体等
3. 調査方法:当社専門研究員による直接面談、電話・FAX・郵送によるヒアリング、ならびに文献調査併用

<ボディケア、リフレクソロジーとは>

本調査におけるボディケアとは「人間の体に触れ、働きかけ、あるいは反射によって働きかけることによって、癒しを与えたり、ストレスを解消するなどを目的とするサービス」と同義とする。このようなサービスでは、マッサージという呼称を通称として用いることがあるが、マッサージは国家資格者(マッサージ師)のみしか施術を行えないことから、本調査では有資格者に限らずボディケアを行うサービスを対象としている。

またリフレクソロジーとは足裏にある特定のゾーン(反射区)を刺激することにより、血行を促進し、身体の新陳代謝を活発にさせることで健康増進や頭痛・肩こり・腰痛などの身体の不調を解消する施術療法であり、本調査ではこうした施術療法を行うサービスを対象としている。

【調査結果サマリー】

◆ 2014年のボディケア・リフレクソロジー市場規模は

前年比 **101.5%**の **1,060億円**と堅調に推移

2014年の国内ボディケア・リフレクソロジー市場規模は事業者売上高ベースで、前年比101.5%の1,060億円であった。主要企業のうち、特にボディケアの店舗を運営する大手企業は好調である一方で、中小規模の企業については、大きく業績を落としているところもある。また格安料金による施術サービスを提供する企業などとの競争もあり、各社の業績に明暗が分かれている状況である。

◆ セラピスト(施術者)の人材不足と待遇改善が重要課題

セラピスト(施術者)の人材不足の問題は依然としてつづいている。こうした人材不足の背景には、新卒で業界のセラピストを目指す人材の数が充分でないことや、既存スタッフの定着率がよくないという2点がある。労働環境改善への取組みが始まっており、労務管理の徹底と、成果主義による給与体系から、人事考課による給与体系へ移行する企業も増えている。

◆ 2015年のボディケア・リフレクソロジー市場規模は

前年比 **101.6%**の **1,077億円**を予測

2015年のボディケア・リフレクソロジー市場規模は、底堅さのある一方で伸び率は鈍化し、前年比101.6%の1,077億円を予測する。大手企業による出店意欲は高く、今後も拡大傾向が予想されるが、中小規模の企業や既存店舗の淘汰は一層進むものとみる。

◆ 資料体裁

資料名：「2015年版 リラクゼーションビジネスの実態と展望」
 発刊日：2015年6月30日
 体裁：A4判361頁
 定価：120,000円(税別)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL: 03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. ボディケア・リフレクソロジー市場の概況と予測

2014年の国内ボディケア・リフレクソロジー市場規模は事業者売上高ベースで、前年比101.5%の1,060億円であった。主要企業のうち、特にボディケアの店舗を運営する大手企業は好調である一方で、中小規模の企業については、大きく業績を落としているところもある。また格安料金による施術サービスを提供する企業などとの競合もあり、各社の業績に明暗が分かれている状況である。

2015年のボディケア・リフレクソロジー市場規模は、底堅さのある一方で伸び率は鈍化し、前年比101.6%の1,077億円を予測する。大手企業による出店意欲は高く、今後も拡大傾向が予想されるが、一方でセラピスト(施術者)や店舗スタッフの人材不足の問題などもあり、2015年は新規出店を抑制する企業もある。こうした企業では既存店の運営維持を優先しながら、人材確保と育成に注力し、来期以降の出店に備える動きをみせている。また中小規模の企業や既存店舗の淘汰は一層進むものとみる。

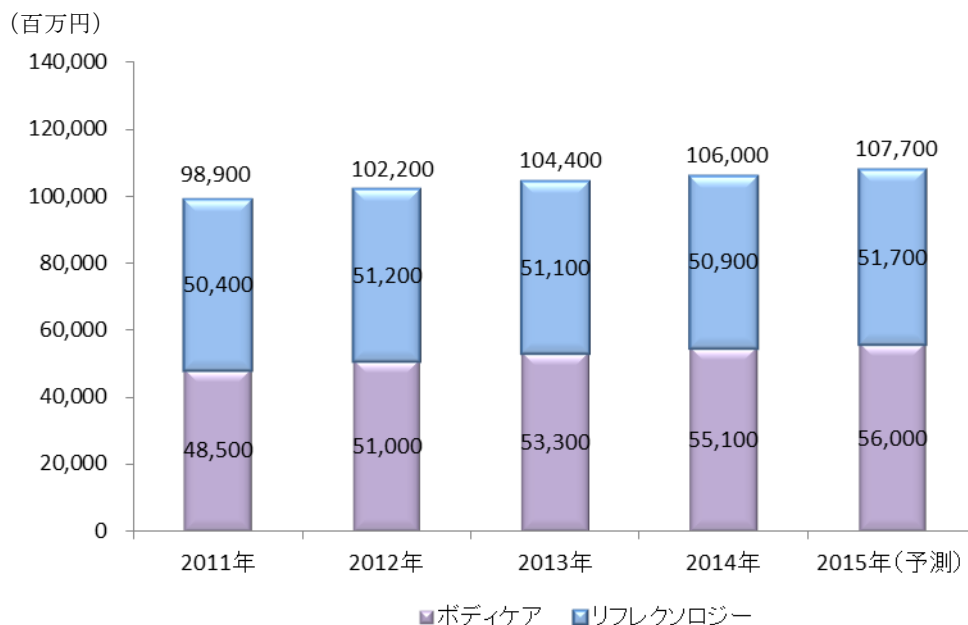
消費者におけるボディケア・リフレクソロジーへの関心やニーズは高いものと推察するが、消費税率引き上げや、食品や光熱費などの物価上昇の影響を受け、利用者層の多くが当該サービスへの支出の優先順位を下げる傾向もある。今後は低料金での施術サービスなどへの利用がより強まる可能性もあるものとする。

2. ボディケア・リフレクソロジーにおける課題

セラピスト(施術者)の人材不足の問題は依然としてつづいている。こうした人材不足の背景には、新卒で業界のセラピストを目指す人材の数が充分でないことや、既存スタッフの定着率がよくないという2点がある。セラピストやスタッフの人材確保と長期定着を目的に、労働環境改善への取組みが始まっており、労務管理の徹底と、成果主義による給与体系から、人事考課による給与体系へ移行する企業も増えている。当該業界は労働集約型であるため、業界共通の課題として長く改善が求められていた。

こうした労働環境における待遇改善策が、就職活動を行なう学生や既存の従業員に少なからずプラスとなることが期待される。

図1. ボディケア・リフレクソロジー市場規模推移



矢野経済研究所推計

注1. 事業者売上高ベース

注2. 鍼灸、指圧、マッサージ、柔道整復などの国家資格を有して行う治療・施術を除く

注3. 2015年は予測値